

横浜三工会 News

No.16
2023.7.30

横浜国立大学 工学部 物質工学科および
理工学部 化学・生命系学科内工学系同窓会



CONTENTS

- ・ 横浜化工会石碑除幕式
- ・ 世界展開力強化事業
- ・ 同窓会名簿管理システム
- ・ 着任教員ご挨拶
- ・ 退任教員ご挨拶
- ・ 卒業生便り
井上 謙様
山崎甲太郎様
竹中康祐様
- ・ 会計報告
- ・ 活動報告
- ・ 事務局からのお知らせ

横浜化工会石碑除幕式

2023年6月3日、化学工学科設立60周年を記念して建立した記念碑の除幕式が、本学常盤台キャンパス化工・安工棟にて開催されました。当日は朝からあいにくの荒天でしたが、横浜化工会関係者（卒業生、旧・現教員ほか）を中心に野手悌士先生のご子息ご夫妻もご来賓として出席され、36名の方が参加され盛会となりました。室内にてご来賓の皆様、記念碑建立の提案者である第一期生宮入嘉夫氏、横浜三工会塩沢文朗会長のご挨拶があり、化学工学系各学科の歴史・現状から、記念碑設置の経緯、昨今の同窓会活動の紹介に至るまで、60年の歴史を振り返る機会となりました。除幕式が始まる時間には空はきれいに晴れ渡り、記念碑前に参加者全員立合いのもと無事除幕され、記念碑のお披露目となりました。緑深いキャンパスの木陰の中で真新しい記念碑が輝いており、やや目立つ印象がありますが、今後時間を重ねるとともに風格を示していくものと思われます。除幕式の後に行われた懇親会では、弘明寺時代のスライドも投影され、第一期生、二期生を中心に久々の同窓生の再会に旧交を温める機会となりました。

記念碑の設置場所は、キャンパス内のメインストリートから

の視界もよく、名教自然碑にも近い化工・安工棟の前庭です。碑面には、表面に旧化学工学科の設立に尽力された野手悌士先生のお言葉である「培教養」の文字とその紹介、裏面に学科沿革と学生へのメッセージが刻まれています。キャンパスを訪れる機会がございましたら是非お立ち寄りください。

碑文

（表面）「培教養」は野手悌士先生（1898-1982）の人材育成の信念で、知識（書物など）に経験（実験など）が加わった教養を培うことの重要性を説かれた。

（裏面）自らの意思で自発的に自由に学ぶ「名教自然」の教えのもと、ここ横浜国立大学で化学工学を学んだ多くの卒業生がいた。

昭和三十七年、野手悌士教授の尽力により機械系の化学工学科が誕生、第一期生が入学。その後、昭和六十年、物質工学科に改称、さらに改変が行われ、現在は理工学部化学・生命系学科として、その教育理念は脈々と受け継がれている。

後に続く若き後輩たちが立派に学業を修め、世界に羽ばたき、産官学分野で活躍されることを心から願っている。

令和5年 横浜国立大学化学工学教室同窓会（横浜化工会）



● 世界展開力強化事業、共同国際シンポジウムを開催

化学工学の中村一穂准教授が中心となり、文部科学省の令和4年度公募事業である「大学の世界展開力強化事業」に応募し、提案した「レジリエントな社会への変革をリードする産官学連携ヨコハマ国際教育プログラム～横浜の地域力を活用した実践グローバル教育による日印豪ブリッジング人材の育成～」が採択されました。

これは、インド・オーストラリアとの国際共修プログラムを構築し、レジリエントな社会への変革をリードし、持続可能な未来社会を創造するSX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）人材育成に取り組むものです。



● 同窓会名簿アルムネット導入に向けて

三工学生会員名簿はこれまで大学内の事務局で管理し、新規登録や更新作業などを行ってきました。これまでに蓄積した名簿データを今年度、「アルムネット」というオンラインサービスへ移行することを予定しております。本サービスはすでに国大化学会で利用されており、他のいくつかの工学系同窓会と同時に移行することとしました。会員の皆様には別途郵送でアクセス情報をお届け致しますので、情報の確認と更新を行っていただければと思います。

なお、このオンラインサービスへ移行することにより、以下のようなメリットがあると考えております。

1. 情報の追加・更新の容易さ：オンラインサービスでは、情報の追加や更新が簡単に行えます。連絡先や勤務先などをリアルタイムで反映することができます。これにより、名簿の情報が最新の状態を保ち、同窓生同士のコミュニケーションを円滑にすることができます。
2. 検索・分析機能：オンラインサービスでは、様々な検索や分析機能が利用できます。例えば、同窓生の名前や学年、勤務先などで検索ができるため、目的の情報を素早く見つけることができます。
3. コミュニケーションの促進：オンラインサービスでは、同窓生同士の交流を活性化させるために掲示板などの機能が提供され、イベント情報やニュースなどを共有することができます。また、同窓会の企画や案内などもオンラインで簡単に行えます。
4. データのバックアップとセキュリティ：オンラインサービスでは、データのバックアップとセキュリティ対策が行われています。データの損失や漏洩のリスクを最小限に抑えることができます。また、権限管理を行うことで、情報へのアクセスを制限することも可能です。

● 着任教員のご挨拶

工学研究院 機能の創生部門
高垣 敦教授の研究紹介

「炭素資源の循環社会へ貢献する固体触媒の研究開発」

皆様、2023年4月1日付けで着任しました高垣敦と申します。私は東京工業大学大学院総合理工学研究科物質電子化学専攻を修了しました。その後、東京大学大学院化学システム工学専攻でポスドク、特任助教、北陸先端科学技術大学院大学で助教、東京大学に戻り助教、そして九州大学大学院工学研究院応用化学部門にて准教授を経て、現在横浜国立大学にて研究室を主宰することになりました。着任当初は羽沢横浜国大前駅からの徒歩通学が大変でしたが、今は運動不足解消に丁度良いと感じています。秋学期より3年生が早期に研究室に配属されることになっており、新しい学生を迎えての新生活にワクワクしているところです。



さて、枯渇性資源の直線利用から再生可能資源の循環利用へ、世界は社会経済構造の大きな転換期にあります。化学反応を促進させ、省エネに貢献する触媒は、今の石油化学産業においてだけでなく、今後の持続可能な社会の構築に欠かせないものです。私は、炭素資源の循環社会の実現を目指し、木質系バイオマスや廃プラスチック等を再資源化する固体触媒の研究開発を行っています。これらの反応のために、自由な発想に基づき新しい触媒や反応プロセスを開発しています。例えば機械的な力を化学反応に応用するメカノケミカル反応があります。この反応によって不活性だった材料に新しく触媒作用を発現させたり、またバイオマスと固体触媒との効率的な反応を行ったりしています。また、放射光施設を利用して、実際に化学反応が起きている状態での触媒作用の解明を行っています。このように触媒化学、反応工学のアプローチにより持続可能な社会の実現を目指して研究を行っています。横浜国立大学の先生方と共同研究等でご一緒できれば幸いです。ご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。

環境情報研究院 人工環境と情報部門
櫻井幹記助教の研究紹介

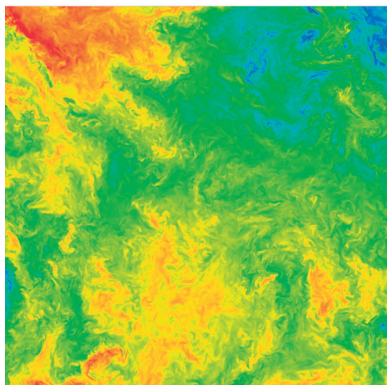
「乱流現象の解明に向けた大規模シミュレーション」

2023年4月1日より横浜国立大学環境情報研究院の助教に着任した櫻井幹記（さくらい よしき）と申します。2022年3月に名古屋大学大学院工学研究科博士後期課程を修了し、パーソルR&D株式会社にて自動運転に関する開発業務、株式会社Acompanyにて人工知能に関する研究業務を行った後、この度、横浜国立大学に着任することになりました。私のこれまでの研究で得られたスキルに加え、民間企業での実務経験を活かして、本学の教育及



び研究に貢献したいと考えております。

私は、乱れた流れ「乱流」の普遍的性質（普遍性）の解明を目指した研究を行っております。乱流は非線形性の強い現象であるため、理論や実験のみによる理解が一般に困難です。そのため、数値シミュレーションを活用した研究が精力的に行われております。大小様々なスケールの



4096³ (約 690 億) 個の格子点を用いた世界最大規模の圧縮性乱流 DNS で得られた乱流場の速度成分の 2 次元可視化図

渦が存在する乱流の全てのスケールを解像する直接数値シミュレーション (Direct Numerical Simulation, DNS) では恣意性のない結果を得ることができますが、一般に計算量が膨大になります。しかし、近年のスーパーコンピュータの発展により、非線形性の強い複雑な乱流場の大規模な DNS が可能になってきています。これにより、非圧縮性乱流の普遍性の理解が飛躍的に進んでいます。しかし、密度変動を伴う圧縮性乱流の普遍性の理解は未だ不十分です。そこで私は、理化学研究所のスーパーコンピュータ「富岳」を用いて世界最大規模の圧縮性乱流 DNS を実現させ、非線形性の強い圧縮性乱流場のデータを得ることに成功しました (図参照)。現在は、得られた圧縮性乱流場のデータを解析することにより、圧縮性乱流の普遍的な統計法則の解明に取り組んでいます。

本学に着任してからは、これまでの乱流研究で得た知見や情報科学の知識を応用し、環境問題や防災に関する研究に取り組みたいと考えております。流体シミュレーションに関するご相談がございましたら、是非ともお力になりたいと存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

● 退任の教員のご挨拶

奥山 邦人名誉教授のご挨拶

本年 3 月をもって定年退職いたしました。教職員の皆様をはじめ、これまでご卒業された皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

本学に着任したころは入学試験会場の監督者専用入口で学生と間違われ制止されることもありましたが、現在では写真のような風貌ですので、経過した年数のおおよそをご推察いただけるかと存じます。

専門は伝熱工学で、特に気液相変化現象を利用した高熱除去・熱輸送技術や熱物質変換に関わる基礎的な研究を行ってきました。伝熱の研究は「機構解明」から「伝熱促進」そして「伝熱制御」と推移し、今世紀に入っては社会情勢からの要請もあり「モノ」から「コト」へ指向や対象が拡大していきましたが、そのような流れにあって、私自身も、熱流体の知見を活かし構造を単純化した系、具体的には熱を与えるだ



けで従来技術を凌駕する機能や性能を発現する相変化や反応のプロセスを提案し、実験で実証するとともに理論的な裏付けをするといった研究をいくつか実施してきました。研究室学生の皆さんとは常に二人三脚を心がけ取り組んできましたが、多くの有意義な成果が得られたことは、皆さんの理解と継続的な努力によるものであったことは紛れもない事実であり、改めて敬意を表したいと思います。

大学の運営関連では、学科長を仰せつかったとき、新たに提案した「エネルギー化学分野教育」が文科省より認められ、学科の定員が平成 29 年度より 10 名増となったこと、また日本技術者教育認定機構 (JABEE) の認定継続審査「化学工学プログラム」の責任者を通じて教育改善に携わったことなどがなつかしく思い出されます。

このあとしばらく大学で研究を継続させていただくことになりました。これまでの学生さん達の努力に報いるべく、研究成果を順次論文にまとめていっています。卒業生の方々のご活躍もお聞かせいただける機会を楽しみにしています。皆様の今後のご健勝とご活躍を心より祈念いたします。

大矢 勝名誉教授のご挨拶

2023 年 3 月に定年退職を迎えました大矢です。横浜三工会の皆様には大変お世話になりましたが、この度文面でのご挨拶を行う機会を頂きましたので、所感を述べさせていただきますと思います。

私は 1990 年に横浜国立大学教育学部に採用され、2011 年より理工学部を担当させて頂くことになりました。ですので横浜三工会に関わらせて頂いた期間は比較的短期間でした。横国大に着任したばかりの頃は、教育学部から見て工学部は研究等のアカデミックな活動が活発で、全くの別世界であると感じていたところ、教育学部の改組や大学院環境情報研究院・学府の設立、そして工学部から理工学部への改組等の学内の組織改革の流れの中で、理工学部担当教員の一人として活動させて頂くことができました。

定年退職までの 10 年少しの期間ですが、ある意味で憧れの対象であった理工学部に着任することができたのは、私の人生におけるご褒美のように感じておりました。私は一般向け著作、講演会やマスコミ等を通じて一般市民の方々に洗浄・洗剤の科学を楽しんでいただく活動に力を入れてきましたが、正直なところ理工学部化学・生命系学科化学応用 EP の看板はとて有難いものでした。そこで、僅かながらも恩返しをと思い、力不足ながら化学応用 EP 代表を 2 年間× 2 期務めさせて頂きましたが、その際に学部の教育面においても横浜三工会の皆様にご支援を頂いていることを実感するとともに、この同窓会組織は現役大学生と卒業生、そして関係者にとっては掛け替えのない財産であると認識しました。

私は、あと暫くは大学院生の研究のサポート、放送大学での面接授業担当等とともに、個人で研究室を開設しましたので技術顧問等を通じた社会貢献、また個人研究を楽しみたいと考えておりますが、定年後の活動においても横浜三工会とのお縁には大変勇気づけられております。ここに改めて感謝の意を表させて頂くとともに、横浜三工会の益々のご発展をお祈りいたします。



● 卒業生便り

東洋エンジニアリング株式会社 井上 謙様 プラント專業エンジニアリングの仕事の醍醐味

2003年に工学部 物質工学科、2005年に同大学院 工学府 機能発現工学科 安藤 / 高橋研究室を卒業しました、井上と申します。

学生時代は自動車部品の疲労強度高寿命化、原子力配管系強度評価手法確立などに関する実験やFEM解析の研究に励んでいました。

卒業後はプラント專業である東洋エンジニアリング株式会社に入社し約19年が経過し、現在は機械エンジニアリング部に所属しています。

プラント專業エンジニアリング業界で仕事をしたいと思った理由は、海外で活躍したい、大学で培った専門知識を少しでも生かしたいと思ったのが理由です。入社1年目から、長・短期滞在を含めインド、韓国、中国、アメリカ、マレーシア、インドネシア、シンガポール、カナダ、サウジアラビアなど気候も文化も人種も全く違った環境の中で、機械設計エンジニアとして多種多様な業務を行ってきました。異国・異人種の環境の中で仕事ができるからこそ、日々の経験がフレッシュで、より思い出深いものにさせてくれるのもこの仕事の大きな醍醐味だと自負しております。

我々が頻繁に手掛ける最大で建設費数千億円を超えるようなメガプラントには加熱炉、反応器、熱交換器、貯蔵タンク、コンプレッサー、タービン、ポンプなどといった何百基もの機器が使われており、それら一つひとつはプラントにとって欠かせない重要な役割を果たしています。これらの機器をプロセス設計要求に合わせて基本設計を行い、最適なベンダー（メーカー）に発注、ベンダーで行われる詳細設計・製作の指導、品質管理、また社内各部（配管、土建、計装、電気設計など）との設計調整を行うが機器設計エンジニアの仕事です。Q(Quality, 品質)・C(Cost, コスト)・D(Delivery, 納期)という観点で、業務上「解」は決して1つではなく、国、環境、情勢によって大きく左右される無数の選択肢の中から適材適所で「最適解」を導きだし、各プロジェクトの成功へ導くということを、プラントエンジニアのモットーとして、日々切磋琢磨しています。

近年は2050年カーボンニュートラル実現の為に不可欠となる、クリーンエネルギー社会実現に向けて、弊社が兼ねてから得意としてきた肥料プラントの中間製品であるアンモニアを燃料利用目的として着目し、さらなる生産プラント大型化や大量貯蔵に関する取り組みに励んでいます。さらに、水素燃料、合成燃料、SAF(Sustainable Aviation Fuel)をはじめとする、次世代エネルギーや循環型・低環境負荷分野等の「新技術・事業開拓」の取り組みをも進めています。

多方面でご活躍されている卒業生の皆様におきましては、カーボンニュートラル達成というベクトルはどのような分野でも同じことと思います。このグローバル目標をぜひ皆様と一緒に達成しましょう！



いであ株式会社 山崎甲太郎様 環境コンサルタントとしての取り組み

2009年に環境情報学府（亀屋研究室）を修了した山崎甲太郎と申します。卒業から現在まで、いであ株式会社でコンサルタントとして勤務しています。業務は、環境省、国土交通省などの官公庁から受注する業務が大半となっており、業務の内容は比較的幅広く、私が担当する最近の主なテーマとしては環境アセスメント、グリーンインフラ、洋上風力発電、太陽光発電、水環境管理、化学物質管理が挙げられます。特に水環境管理は、閉鎖性海域における規制制度、栄養塩の管理等について検討を進める業務を担当しており、注力しているテーマです。



現在の水質総量削減制度は、生物多様性・生物生産性の確保の観点も踏まえた総合的な水環境改善対策への推進が必要であるとされ、陸域負荷の削減を強化し続けることを止めて、現状維持の方針に転換されました。今後は海域ごとにきめ細やかな水環境管理が必要とされ、底層DOや既存の環境基準を用いた総合的な水域評価方法等の検討がなされる予定です。水環境行政における方針や考え方の大きな転換期とも言える今のタイミングでの検討は、遠い将来の水環境行政まで考える必要があり、やりがいのある業務となっています。

学生時代は、バイオアッセイを活用した化学物質のリスク管理を研究しておりましたので、就職後も学生時代の研究を活かすことが出来ている職場であると言えます。また、学生時代に関わりのあった学会として、日本水環境学会がありますが、現在も御縁があり、担当者として学会誌の編集をお手伝いしたり、学会関東支部の幹事としてイベントを企画したりしています。

働き方の紹介をしますと、コンサルタントという職種ですので、特にお客様とのコミュニケーションが重要な職種となります。対面だけではなく、コロナ禍を経て増えたオンラインのメリットも活かしつつ、バランスの良い効率的な働き方が今後も重要になってくるかと思っています。また、日本でも男性育休に対する考え方が変化しつつあるかと思えます。私の場合は、会社の理解もあって約3カ月の育休を取得しており、仕事も家庭も大事にできる社会になりつつあることを実感しております。

時代の流れとともに仕事の内容も働き方も変わっており、コンサルタントとして変化に対応できるよう研鑽に努めておりますが、その学びの基礎を学ばせていただいた横浜国立大学には感謝しております。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

日本航空株式会社 竹中康祐様 運航乗務員訓練生としての日々

2020年に理工学部化学・生命系学科バイオEPを卒業しました竹中康祐と申します。在学中は飯島研究室に所属し、細胞医療の研究を行っておりました。学部を卒業後、日本航空株式会社（以下JAL）に運航乗務員訓練生として入社しております。現在はアメリカのフェニックスという場所で基礎訓練を行っております。

今回はせっかくこのような場をいただきましたので訓練などについて紹介します。大学で学んだ内容とは大きく異なる

話になりますがお付き合いいただければと思います。

日本ではパイロット養成の多くが自社養成というもので行われております。これは航空会社の会社員として、実運航に必要なライセンス取得の訓練を行うものです。採用にあたって必要な資格等は無く、文系理系も問われません。

入社後は地上業務として空港やコールセンターの業務等を通じて、航空会社の社員としての基礎的なマインドなどを学んだ後、訓練が開始されます。JAL では最初の訓練をアメリカ・アリゾナ州フェニックスで行います。晴天率が高く初期訓練を行うには絶好の地ということです。

飛行機の操縦はエンジンのパワーと飛行機の姿勢をコントロールすることによって行います。姿勢を変化させることで揚力が増減して上昇や降下、旋回を行い、3次元の動きをコントロールします。ただし揚力の変化に伴って抗力も変化するため、パワーで常にスピードをコントロールする必要があります。ただし、高度や気温でエンジンの性能が変わって

しまうのでコントロールが難しいです。また、着陸のフェーズでは速度や高度から総エネルギーを判断し、適切な修正を絶えず加えていく必要があります。気温が50℃に迫るフェニックスでは対流が起こりやすく、突然高度を上げられたり、下げられたりします。このように自然に翻弄されながら、日々苦闘しております。しかし大変ながらも、広大な空を飛ぶのは非常に楽しく、興味を持って訓練を進めています。

現在単発のプロペラ機での訓練をしておりますが、訓練が順調に進むと、今後は小型の双発ジェット機を経て、一般に想像される実用機の訓練へ移行していきます。実用機は250 m/sほどの巡航速度となるので、操縦に加えて素早いタスクマネジメントなど、私の想像を超える様々な能力が求められると考えています。

今後も困難の連続となると思いますが、支えてくださる方やこの環境に感謝して日々精進したいと思います。

● 会計報告

令和4年11月6日開催の横浜三工会総会で承認されました。

令和3年4月1日～令和4年3月31日

収入	
前年度繰越金	¥6,461,211
横国大校友会 (バイオ EP1 年生)	¥870,000
名教自然会 (化学応用 EP2 年生)	¥2,100,000
年会費・寄付など	¥623,608
その他 (利子)	¥56
合計	¥10,054,875

支出	
工学部同窓会連合年会費	¥185,000
三工会ニュース印刷・配送	¥581,945
学生表彰 (プレゼン賞)	¥119,321
学生幹事企画イベント等 (OBOG 会)	¥200,000
卒業生記念品	¥71,630
学位記授与式お花	¥5,000
その他事務、消耗品等	¥91,228
合計	¥1,254,124
残高	¥8,800,751

振替口座残高	¥1,399,773
普通貯金残高	¥7,375,731
現金残高	¥25,247
合計	¥8,800,751

● 2022 活動報告

2022年10月3日に化学応用 EP・横浜三工会共催3年生向けの研究室配属説明会を開催!!

2022年度のオンライン研究室説明会を2022年10月3日(月)に実施しました。学部3年生(B3)の参加人数は43名でした。2021年度同様、研究室所属学生に動画付きの発表資料を事前に作成するとともに、昨年度よりも発表時間を延ばし、発表内容を自由にしたことで各研究室の色がB3により伝わったと思います。B3へのアンケート結果より、参加してよかったという声を多数いただきました。

2022年11月6日に令和4年度横浜三工会総会を開催!!

2022年度の横浜三工会総会を緩和された感染症対策とし

てハイブリッド形式(web、対面)で行いました。

2021年度の活動報告とともに会計報告が行われ承認されました。また、成績優秀な化学応用EP4年生10名、バイオEP4年生3名に学生奨励賞を塩沢会長より授与致しました。



2022年12月10日に第6回横浜三工会主催 OB・OG会を開催!!

2022年12月10日(土)に第6回目のOB・OG会を開催しました。本年度は新型コロナウイルス蔓延防止のため、昨年度に引き続きオンラインで開催しました。学生16名、OB・OG9名の方々にご参加頂き、チーム対抗のレクリエーションを行いました。また、OB・OGの方々から様々な業界や働き方を教えていただき、学生にとって大変貴重な経験となりました。2023年度もOB・OG会を開催する予定ですので、ご参加いただくと幸いです。



2023年3月23日に化学生命系学科 (化学応用 EP/ バイオ EP) 学位授与式を開催!!

2023年3月23日(木)に化学生命系学科(化学応用 EP/ バイオ EP)学位授与式を開催しました。感染対策のため、あらかじめ各机に学位記などを置き、着席形式で行いました。化学応用 EP は卒業論文審査会におけるベストプレゼンテーション賞を3名、グッドプレゼンテーション賞を6名の学生に、バイオ EP は最優秀学生賞1名、優秀学生賞3名を授与しました。また、昨年に続き卒業記念品として同窓会名入れが入った YNU トートバックを卒業生全員に贈呈しました。



事務局からのお知らせ

本会教員の異動について

- ・2022年4月1日付けで化学応用 EP 助教として、ソ・ジウン先生が着任されました。
- ・2023年3月31日付けで化学応用 EP (環境情報研究院) 教授 大矢勝先生が定年退職されました。同年4月1日付けで大矢先生に名誉教授の称号が付与されました。
- ・2023年3月31日付けで化学応用 EP (工学研究院) 教授 奥山邦人先生が定年退職されました。同年4月1日付けで奥山先生に名誉教授の称号が付与されました。
- ・2023年4月1日付けで九州大学より化学応用 EP (工学研究院) 教授 高垣敦先生が着任されました。
- ・同日付けで化学応用 EP (環境情報研究院) 助教 櫻井幹記先生が着任されました。

寄付金・終身会員費のご入金にてご支援頂いた会員さまに向けて

毎年、年会費・寄付金のご支援を賜りまして誠に有難うございます。大切な同窓会費は在学生へのサポートを中心に会報誌発送、新たな名簿システム(アルムネット)等に使用されております。昨年度より寄付金や終身会員費4万円を頂いた会員様には、近年迎えました理工系創立100周年を記念して大学で作成されました「金のしおり」と「記念誌」をこころばかりですがレターパックにてご送付しております。数に限りがございますので、なくなり次第終了とさせていただきますので、ご了承ください。



「金のしおり」と「記念誌」

OB・OG 役員、学生役員の募集

当同窓会はOB・OG、学生のボランティアで運営されております。つきましてはボランティア活動となる運営にご参加頂けるOB・OG、在学生の方は在学学生役員、または事務局までご連絡ください。

横浜三工会のOB・OG、在学生が盛んに交流できるよう、今後とも活動に支援していく所存でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。



(事務局)

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5
横浜国立大学 理工学部 化学・生命系学科 化学応用 EP 内
TEL:045-339-3991 FAX:045-339-4012
E-mail:yokohamasankoukai@ynu.ac.jp

<https://sankou-kai.ynu.ac.jp/>

<https://www.facebook.com/groups/ynusankoukai/>

化学応用 EP のホームページ <http://www.cap.ynu.ac.jp/> も参照ください

バイオ EP のホームページ <http://www.bio.ynu.ac.jp/> もご参照ください